

かなえ

第69号(平成30年2月)

医療法人社団鼎会 三和病院

松戸市日暮7-379 ☎047-712-0202

<http://www.sanwa-hsp.or.jp>

八柱三和クリニック

松戸市日暮1-16-2 ☎047-312-8830

<http://www.y-sanwa-cl.com>



Kou - Sugaya 2018.1

「春雨橋」

前々回、伊勢丹正面からスケッチを描き、続いてこの地区の春雨橋周辺をスケッチ。

坂川がL字に曲がるこの場所は川に下りる階段やウッドデッキが整備され、子供連れの主婦が一寸休むにはピッタリ。

今は寒中ですが、春の一日はこのデッキで遊ぶ子供達が多くなることでしょう

絵、文管谷功
2018年1月



年寄り笑うな行く道だ

顧問

高林 克己



小松徳次郎はT大の教授を辞してからも名誉教授として大学に研究室をもち、週に何日か通っては、昔からの研究テーマであるゾウリムシのミトコンドリア遺伝子多型のまとめを続けていた。しかし昨年秋に妻を亡くしてからはめっきり老け込んでしまった。それでも彼は研究を続けようとするのが彼自身の老化防止になると信じて、大学への通勤を続けている。



いまや一人暮らしは、彼の好むと好まざるとにかかわらず、彼の宿命となった。朝見送ってくれ、晩には迎えてくれる人間がいなのは寂しいことであるが、それ以上に家の中のことまで何でも自分でしなければならない。家庭生活の中での夫や父という日本男児の立場はこの世代の前後で大きく変わってしまった。昭和10年代の生まれ、戦中派といわれる彼の同世代では風呂の沸かし方、電気釜の使い方さえわからない人が多い。団塊の世代になればそれなりの家事は手伝うようになり、さらにその子供の時代では、夫が皿洗いや料理をすることまで当たり前になってしまった。彼が今なんとかできているのは、かつての米国留学の間単身でなんでもしなければいけない時期があったからで、それが今になって役に立っている。また父としての威厳はパターンリズムという過去を示す言葉とともに消えてしまい、強くてこわい存在ではなく、優しくなんでもしてくれる叔父様のような父親像がもてはやされる時代とあっては、彼のようにがみがみと娘

たちを怒鳴るような存在は孫にさえも忌み嫌われる。そもそもそれほど大事に可愛がった記憶もない娘たちに今更恩着せがましく一緒に住んであげましようかなどと言われた時に、とんでもない、お断りだとあっさり断ってしまった。考えてみれば仕事に明け暮れ、家庭のことなどは全て家内に任せて、一切顧みない人生だった。お前たちは親父の背中を見てついてこいという世代である。とはいっても実は娘たちが代わる代わるきては洗濯や掃除をしてくれているから、家の中はなんとかかたづいているのだが。その気難しさを知っていて彼女たちはできるだけ顔を合わせないようにしていた。

最近はしかし、どうも出かけるのが億劫になってきた。歳なのだろうか。仕事が嫌というわけではない、研究室に行けば若者たちはそれなりに敬意を払ってくれる。ただ仕事が進まない。前回何をどこまでまとめたのかよく思い出せない。通勤が疲れる。途中で何か邪魔が入ることが多い。そう、特に駅前にはそうしたことが多い。なんだかんだ人にケチをつける失礼な輩が多いのだ。私が大学に行くことをやめさせようとする。これも時代のせいだろうか。そもそも私が誰だか知らないからだろう。

そんなことをぶつぶつ言いながら、カレンダーをみて明日は水曜日、大学に行く日だと準備をして床につく。シュトルムの「みずうみ」の青年が老人になり、若き日の恋人の名前を呼んで夜の帳に埋もれていくように、妻の名を呼んで。

朝になった。今日は良い天気だ。しかしここでそういえば駅前の交番の警官が最近やたら失敬なのだと思います。不愉快になる。

今日こそ、あいつの鼻を明かしてやろう、今までいつもダンディと言われてきた。すっかり白くなった髭を鏡に向かって丁寧に剃り、髪はヘアクリームでオールバックにまとめた後、ストライプのワイシャツを着て、昔パリで買ったドミニックフランセの赤いタイをしっかりと締め、ジャケットをひっかけると、鏡をみて完璧だと自分ながらに思える。

家を出るときにはいつも指差し確認だ。電気、ガス、水道、そしてセコムを仕掛けて、あとは持ち物の7点セット。財布、小銭入れ、定期券、ハンカチ、ティッシュ、万年筆、そしてそう、携帯電話。これで万事OK。



ここは八柱駅まで徒歩10分、そこから電車で1時間弱で大学である。駅までは一方的な上り坂で、朝の通勤者にとってはマラソンのような心臓破りの丘だが、まだまだ真夏の暑い時を除けば、未ださほどつらいことはない。秋になって風は心地よい。昔は何もなかったこの周りも今は樗が立派に育った並木となり、道沿いに良い家が立ち並ぶようになった。今朝は人数も少なく、気持ちよく歩ける。

傍らの寺から焚火の香しい匂いがした。犬の散歩の婦人が坂を下ってきたが、こちらが会釈してもにこりとも挨拶もせず、ずっと下を向いて歩いている。失礼な人だ。いつかこの町は挨拶日本一の町とか書いてあったが、誰も実行しないからこうした標語ができるのだろう。駅前大通りを横切る信号を待っていると、向かいの女子学生たちがこちらを指さして笑っている。あの連中はほんとに何があっても笑うことができる不思議な存在だ。必ずこの後に訪れるであろう人生のさまざまな苦難が彼女たちから笑顔を奪うのもそんなに先ではない。信号を渡ればもうじき駅だがその前に例の交番がある。今日もまたなんだかんだと言いがかりをつけるのだろうか、そっと黙って通り抜けよう。いなければよいが。そう思って急ぎ足で交番の前を通り過ぎようとしたその時、あの嫌な四角い顔をした警官が待っていたように飛び出してきた。

「先生、正確ですね、いつも通り7時45分、ご苦労様です、でも今日は日曜ですよ。とにかくその格好で歩いちゃ困りますよ、パンツ一枚では電車に乗れません。」



小松徳次郎 73歳 T大学理学部生物学科名誉教授 夫人の死亡後から認知症の症状が出現、毎日大学に通おうとするも着衣失行(着ることができない)あり。



認知症は短期記憶の病気であり、物忘れとして始まることが多いのです。また同伴者の死後などに一気に顕在化することがあります。今後700万人を超える方が認知症になると言われています。現在では早期であればいくつかのお薬で進行を抑えることが可能になってきました。

作者プロフィール

1975年 千葉大学医学部卒
1975年 千葉大学病院第二内科入局
1985年 松戸市立病院内科医長
1987年 千葉大学医学部附属病院助手
1990年 ドイツ連邦共和国 MEDIS研究所留学
1996年 千葉大学第二内科講師

1999年 東松戸病院内科部長
2001年 千葉大学医学部附属病院 医療情報部助教授
2004年 同企画情報部教授
2011年 同副病院長 学長特別補佐
2015年 定年退官、三和病院顧問
2017年 千葉大学名誉教授



休診のお知らせ

三和病院

2月7日(水) ……窪田 徹矢 医師
 2月9日(金) ……長谷川 圭 医師
 2月24日(土) ……渡辺 修 医師
 代診 高松 友里 医師
 3月24日(土) ……渡辺 修 医師
 代診 高松 友里 医師

八柱三和クリニック

3月28日(水) ……神崎 哲人 医師
 代診 鈴木 明子 医師
 4月4日(水) ……神崎 哲人 医師

高林医師 毎月第3木曜日は15:30
診察開始になります。

お知らせ

八柱三和クリニック開院8周年を迎えました

八柱三和クリニック開院8周年を迎えました。これからも皆様により良い医療を提供できるよう日々努力してまいります。これからもよろしくお願いいたします。




糖尿病患者会「さくら会」のご案内

三和さくら会とはクリニック、三和病院に通院中の糖尿病患者さんやご家族、医療スタッフで作っている患者会です。患者会では患者さん同士の意見交換、ウォークラリーや他の患者会との交流会に参加しています。また、糖尿病専門誌「糖尿病ライフ さかえ」を毎月読むことができ、食事や運動のことなど様々な情報を得ることができます。

会費 3,600円 (4月～翌年3月まで)
 ※途中入会の方は300円月掛けとします
入会希望の方は、スタッフへお声がけください。

医療法人社団鼎会基金へのご協力をお願いします。

現在までに多数の方々よりご協力をいただいております。地域に根差した医療活動を軌道に乗せること、入院患者の皆様様の負担を軽減し病棟運用を効果的に行うために一層の努力を重ねてまいります。引き続き鼎会基金へのご協力をお願いしております。

鼎会基金の詳細や募集要項等につきましては下記にお問い合わせください。



三和病院内 鼎会本部総務課 基金係
TEL047-712-0202

三和病院・八柱駅間 シャトルバス運行 予定表 平成28年8月



	八柱駅発		三和病院発	
8時	30	50	40	
9時	10	30 50	00 20 40	
10時	30	50	20 40	
11時	10	30 50	00 20 40	
12時	30	50	20 40	
13時	10	30	00 20 50※	
	昼休み		※土曜日のみ 運行の最終便	
14時	20	40	10 30 50	
15時	00	20 40	10 30	
16時	20	40	10 30 50	
17時	00	20	10 30 45※	

※この便は状況に応じて増便いたします。

※交通状況等によって時間通りに運行できないことがあります。
 ※日曜・祝日・年末年始(12/30～1/3)は運行していません。